

令和 4 年度鳥取県立博物館事業の事業計画案について

事業番号	事業名	事業概要	備考（変更点等）
1	企画展 開催費	鳥取県の自然、歴史・民俗、美術分野の資料、作品、研究成果等や、世界的・全国的に貴重な作品等を県民に紹介するため企画展を開催する。なお、令和 4 年度は県立博物館の開館 50 周年にあたることから、記念する年にふさわしい内容とする。 (1) 春(歴史・民俗) 三蔵法師が伝えたもの 奈良・薬師寺の名品と鳥取・但馬のほとけさま(仮称) (2) 夏(自然) ティラノサウルス展 ～T. rex 驚異の肉食恐竜～ (3) 秋(全分野) すべて見せます！ 鳥取県立博物館の 50 年(仮称) (4) 冬(美術) 安岡信義と鳥取近代洋画のパイオニア(仮称)	○事業規模は令和 4 年度が開館 50 周年ということで、臨時的に 5 百万円増額要求している。 ○企画展 1 件あたりの会期をより長くとれるよう、年間 5 件開催していた企画展を 4 件に見直し。 ○各企画展の内容は、開館 50 周年記念事業検討プロジェクトチームで検討してきたもの。 ○広報強化のため、マスコミとの実行委員会方式での開催を継続予定。
1-1	企画展 開催費 R 5 開催分	令和 5 年度に開催を考えている企画展について、展示に必要な作品、資料等の所有者等との借用交渉など、開催の前年度から必要な準備を行う。(企画展名称はすべて仮称) (1) (自然) アインシュタイン展 (2) (歴史・民俗) 勾玉の世界 (3) (美術) ミュージアムとの創造的対話04「アートと…教育/学び/共有！！?? Art and …Education/Learning/Sharing」 (4) (美術) 生誕 200 年 根本幽峨 NEMOTO Yūga —鳥取藩絵師 最後の華—	
2	博物館 運営費	県民に快適な鑑賞環境が提供できるよう、来館者等から意見をお聞きしながら博物館施設の運営を行う。 近い将来に予定している博物館改修について、平成 30 年 6 月策定の博物館改修整備基本構想(中間まとめ)をより具体的な計画にするよう検討を行う。 博物館が収蔵している約 17 万点におよぶ資料を害虫やカビ類などから守るための被害調査や防除対策を行う。	○博物館振興会の人件費 ・ 期末手当分を増額要求中 ○施設の維持管理 ・ 直流電源装置用蓄電池 ・ 低濃度 PCB 含有変圧器取替工事
3	博物館 交流 事業	新型コロナウイルスで中断している、中国河北省博物院、韓国国立春川博物館、ロシアアルセーニエフ極東歴史博物館との交流について、新型コロナウイルスの状況を見ながら再開する。また、新型コロナウイルスの流行前にモンゴル国中央県立博物館から交流の打診を受けており、新たな交流の可能性等についての検討を行う。	○新型コロナウイルスの影響で令和 2 年度から交流事業が実施できておらず、令和 4 年度の内容について相手方との調整が必要。

事業番号	事業名	事業概要	備考（変更点等）
4	自然事業費	自然資料(地学・生物)の収集・保存と調査研究を行い、その成果を常設展示と教育普及活動により県民に紹介する。	○貝類標本整理専門員(会計年度任用職員)配置(3年計画の2年目)
5	人文事業費	人文資料(考古・歴史・近現代・民俗)の収集・保存と調査研究を行い、その成果を常設展示と教育普及活動により県民に紹介する。	○「安達清風文書」整理・研究事業(3年計画)は令和3年度で終了 ○床貼絵図の製作 ・コロナ禍で県内(中西部)の小中学生が修学旅行等で当館見学に来館したこともあり、事象を広く紹介するため倉吉・米子の町の絵図を製作・紹介する。
6	美術事業費	美術資料(絵画・彫刻・工芸・写真等)の収集・保存と調査研究を行い、その成果を常設展示と教育普及活動により県民に紹介する。	
7	博物館普及事業費	県民の生涯学習や学校教育を支援するために、各種の講座や体験学習会、移動博物館などを実施するとともに、博物館の活動、研究成果、利用方法などについて広く情報を発信する。 県内の小・中・高校生には、ふるさと鳥取の良さを感じ、誇りに思い、地域に貢献しようとする人材や、遠くに離れていてもふるさと鳥取を思い、鳥取を支えるような人材の育成につなげる「ふるさとキャリア教育」に取り組む。	
8	美術館・博物館等ネットワーク強化推進事業	県内の博物館、美術館、歴史民俗資料館、考古資料館等で「鳥取県ミュージアム・ネットワーク」(以下「T. M. N.」という。)を組織し、県内の博物館等の連携基盤を確立する。各館の運営や事業の発展向上を図るため、研修会や共同企画展を開催する。	○博物館資料アドバイザー派遣事業(3年計画)は令和3年度で終了

令和4年度美術館整備局事業の事業計画案について

事業番号	事業名	事業概要	備考（変更点等）
1	鳥取県立美術館整備推進事業	令和7年春(令和6年度中)に開館予定の鳥取県立美術館を、PFI手法により着実に整備及び開館準備業務を進めるとともに、開館に向けて、美術館活動の効果を先行して波及させ、県民と連携した美術館づくりを行う。	

令和4年度企画展 鳥取県立博物館開館50周年・薬師寺玄奘三蔵院伽藍落慶30周年記念
「三蔵法師が伝えたもの 奈良・薬師寺の名品と鳥取・但馬のほとけさま」(仮称)
開催要項(案)

1 趣旨

鳥取県立博物館は、これまで鳥取県内の自然・歴史民俗・美術に関する展示を行うとともに、国内の優れた作品を広く県民に紹介してきた。令和4年は博物館開館50年という節目の年である。

50周年イヤーのスタートを飾る本展では、七世紀、唐の都長安からインドに向かい、数多くの仏典を持ち帰って翻訳し、現在の仏教に大きな影響を与えた三蔵法師(玄奘三蔵 602～664)と三蔵法師を開祖とする法相宗の大本山薬師寺(奈良市西ノ京)の歴史と文化を、同寺所蔵の名品をもとに紹介する。

さらに、本展では、三蔵法師が伝えた仏教や仏典の鳥取県下におけるひろがりを示す、県内に残る奈良～平安時代の観音菩薩を中心とした仏像、釈迦十六善神像といった仏画の名品を展示する。

また、奈良時代、法相宗・興福寺の高僧 玄奘(734～818)が伯耆(鳥取県西部)に隠棲した際、開創されたとされる阿弥陀寺(のち豊寧寺(南部町賀祥))関係資料も紹介する。

※薬師寺・・・奈良市西ノ京の法相宗大本山。680年天武天皇が持統皇后の病氣平癒のため藤原京に造営された寺院。718年平城京遷都により現在地へ移った。

2 会期

令和4年4月9日(土)～5月15日(日) 35日間
休館日：4月18日、5月9日の各月曜日

3 会場

鳥取県立博物館第1・第2・第3特別展示室

4 入館料

一般700円(前売・団体・大学生・70歳以上の方500円)

※高校生以下の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、学校教育活動での引率者は無料

5 主催

薬師寺展実行委員会(鳥取県立博物館・山陰中央テレビジョン放送株式会社)

6 特別協力

法相宗大本山薬師寺

7 展示構成

1章 古都奈良の名刹 薬師寺(薬師寺について/白鳳・奈良の鳥取の寺院遺跡)

2章 玄奘三蔵と法相宗(玄奘三蔵について/法相宗について/伯耆の法相宗寺院阿弥陀寺と玄奘)

3章 鳥取県の名仏たち 観音菩薩を中心に

4章 因幡・伯耆・但馬の釈迦十六善神像と大般若経の名品

8 関連事業

特別講演会や展示解説などを開催予定

主な展示品(予定)



玄奘三蔵像 奈良国立博物館蔵



重要文化財 弥勒菩薩坐像 薬師寺蔵



国宝 茲恩大師坐像 薬師寺蔵



重要文化財 十一面観音立像 薬師寺蔵

令和4年度企画展 鳥取県立博物館開館50周年記念
「ティラノサウルス展 ～T. rex 驚異の肉食恐竜～」
開催要項(案)

1 趣旨

ティラノサウルス・レックス(*Tyrannosaurus rex*)は、「暴君(Tyranno)トカゲ(saurus)の王(rex)」の名の通り、頑丈な頭骨にズラッと並ぶ鋭い牙が特徴的で、全長約12mを誇る史上最大級の肉食恐竜である。彼らは白亜紀の終わり、6,800～6,600万年前のアメリカ西部に生息しており、恐竜時代の終焉とともに姿を消した。1902年に最初の化石が発見されて以来、ティラノサウルスは多くの研究者を魅了し、さらには映画を筆頭としたメディアにも多数登場し、最も有名な古生物の一つとなった。

本企画展では、中国地方初公開となる「エドモントサウルスに襲いかかるティラノサウルス(愛称:アイヴァン)」をはじめとするティラノサウルスの全身骨格模型やロボットを展示し、彼らの姿かたち、身体能力、生活様式など最新の研究成果をもとに解説する。

また、株式会社NAKEDによるリアルサイズのティラノサウルスを体感・体験できる大迫力の映像・インタラクティブコンテンツを用いてティラノサウルスを現代によみがえらせる。

2 会期

令和4年6月18日(土)から同年8月28日(日)まで 68日間
休館日: 6月20日、27日、7月4日、11日の各月曜日

3 会場

鳥取県立博物館 第1・第2・第3特別展示室

4 入館料

一般1,000円(前売・団体800円)

※大学生以下の方、70歳以上の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、学校教育活動での引率者は無料

※実行委員会形式となる場合は、別途協議となります。

5 協力

福井県立恐竜博物館、福井県立大学恐竜学研究所、天草市立御所浦白亜紀資料館、天王寺動物園など

6 おもな展示物

エドモントサウルスに襲いかかるティラノサウルス(ともに全身骨格模型)/肉食・植物食恐竜の全身骨格模型またはロボット/株式会社NAKEDの映像・インタラクティブコンテンツなど

7 関連事業・その他

- ・講演会またはシンポジウム
- ・恐竜を題材にした自然講座
- ・ギャラリートーク

【展示品（予定）】



エドモントサウルスに襲いかかるティラノサウルス

〔愛称：アイヴァン Ivan〕

（ともに全身骨格模型、写真はアメリカ ワールドトレジャー博物館）



ティラノサウルスロボット

（株式会社ココロ製、写真のロボットは全長

約 5.4m）



株式会社 NAKED による“インタラクティブコンテンツ”

※インタラクティブコンテンツとは、コンテンツとユーザー間で「双方向」にやり取りが行われるコンテンツのこと。この場合、天井・壁面・床に投影されたティラノサウルスや植物などの映像が来場者の動きに反応し変化する。

令和4年度企画展 鳥取県立博物館開館50周年記念
「すべてみせます！鳥取県立博物館の50年」（仮称）
開催要項（案）

1 趣 旨

鳥取県立博物館は、県内唯一の自然・人文・美術の総合博物館として昭和47（1972）年10月に開館した。前身は昭和24年に鳥取城跡内の「仁風閣」を建物に発足した鳥取県立科学館であり、昭和29年には生物・地学・考古・民俗を扱う鳥取県立科学博物館となった。

そして、昭和47年に鳥取県立図書館が保管していた鳥取藩池田家資料を移管し、新たに美術部門を加えて、現在の場所に総合博物館として新設された。開館当初ですでに約5万点の資料を収蔵していたが、50年間の活動により、現在その数は約18万点となっている。

今回の展覧会では、半世紀にわたり収集・保管されてきた県民一人ひとりの財産である資料を可能な限りすべて展示し、博物館の根幹にある資料収集と調査研究の50年を紹介する。また、これらの資料から解明された知見を紹介することで鳥取県への理解を深め、さらに博物館のあり方についても考えていく。

2 会 期

令和4年10月29日（土）から12月11日（日）まで 38日間
休館日 毎週月曜日

3 会 場

鳥取県立博物館 第1・第2・第3特別展示室

4 入館料

一般500円（前売・団体300円）

※大学生以下の方、70歳以上の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、学校教育活動での引率者は無料

5 展示構成

(1)鳥取県立博物館のプロフィール

当館の全分野を知ってもらうための導入展示

(2)鳥取県立博物館が誕生するまで

開館までの前史

(3)すべてみせます！鳥取県立博物館の収蔵資料

分野ごとに前史を踏まえた50年間の資料収集の歴史と目的、特徴、および成果を紹介
【分野：考古、古代・中世、近世、近現代、民俗、地学、動物、昆虫、植物、美術】

企画展「すべてみせます！鳥取県立博物館の50年(仮称)」 展示内容イメージ(一部)

動物分野の収蔵庫 (一部)



昆虫分野の収蔵庫 (一部)



地学分野の収蔵庫 (一部)



民俗分野の収蔵庫 (一部)



その他、植物、考古、歴史、美術の分野がある。

**令和4年度企画展 鳥取県立博物館開館50周年記念
「安岡信義と鳥取近代洋画のパイオニア」展（仮称）
開催要項（案）**

1 趣 旨

本展覧会は、歿後90年を迎える鳥取市出身の洋画家・安岡信義(1888-1933年)に焦点をあて、その画業の全貌を初めて網羅的に紹介する回顧展として開催するものである。鳥取市出身の安岡は東京美術学校区画師範科、次いで同校研究科にて油彩画を学び、郷里にて画家としての円熟期を迎えたのち、教師として赴任した富山県に活動の基盤を移して美術文化の振興に尽力した。東京にて岡田三郎助らに師事するなかで吸収した外光派に由来する豊かな空間表現と確かな素描力は、戸外の人物画や風景画として結実している。

本展覧会では、これまで未公開であった関連資料群の調査を通じて、この知られざる画家の全容を紹介すると同時に、藤井禎三郎や久米福衛ら県内で活動した同時代の画家たちとの交友関係にも着目し、遠藤董にはじまる鳥取の近代洋画壇の形成期において安岡の画業を適切に位置づけ、顕彰する機会とする。

2 会 期

令和5年2月11日(土)から3月21日(火・祝)まで 34日間
休館日 会期中の3月20日(月)を除く毎週月曜日

3 会 場

鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 入館料

一般800円(前売・団体600円)

※大学生以下の方、70歳以上の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、学校教育活動での引率者は無料

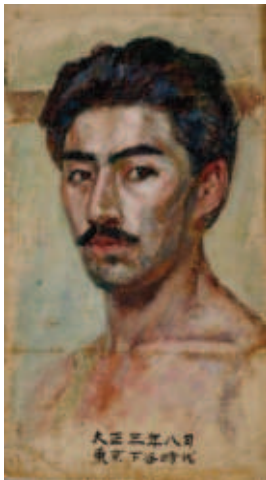
※実行委員会形式となる場合は、別途協議となります。

5 関連事業

特別講演会や展示解説などを開催予定

令和4年度企画展「安岡信義と鳥取近代洋画のパイオニア（仮称）」展 展示イメージ（案）

※本紙に掲載の作品はすべて、カンヴァス・油彩



安岡信義《自画像》1914年
当館蔵



安岡信義《読書（緑陰）》1915年
当館蔵



安岡信義《水浴》1916年
当館蔵



森岡柳蔵《林》1914年
当館蔵



中井金三《大山滝雪景》1916年
当館蔵



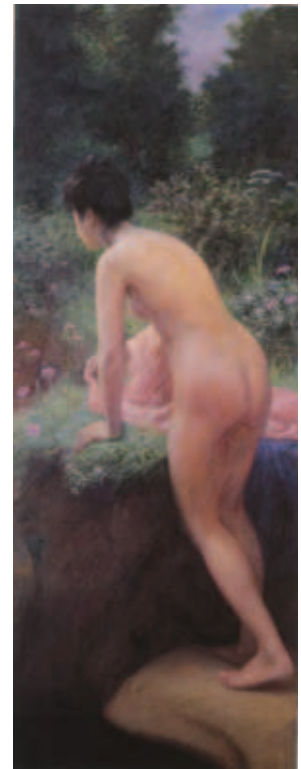
黒田清輝《湖畔》1897年
東京文化財研究所蔵



藤島武二《池畔納涼》1898年
東京藝術大学芸術資料館蔵



小林万吾《物思い》1907年
東京藝術大学美術館蔵



岡田三郎助《水浴の前》1916年
石橋財団アーティゾン美術館蔵